



1 月 号

昭和59年1月1日
 編集／発行
 岡崎市教育委員会

過去を尊重し
 現在に喜びを感じ
 未来に希望をもつ大門子

風雨に耐える丈夫なからだ
 最後までやりぬく充実した気力
 友情を大切にする大門子

学区の伝統を
 誇り 愛し

守り続ける大門子
 大門小教育目標より



(注連飾の由来や意味を学ぶ子ら—大門小)

有吉佐和子の「華岡青洲の妻」がベストセラーになり、映画や演劇に上映、上演されて、医学や薬学関係者のみならず、広く一般の人々にも華岡青洲の名が知られるようになった。

青洲先生は、二十有余年の刻苦研究の後、曼陀羅華（通称、朝鮮アサガオ）を主薬とする全身麻酔薬「麻沸散（通仙散）」を用いて、大和五条から来た六十歳になる藍屋利兵衛の母、勘の乳癌の摘出手術

一 教育随想 一
わが家の
華岡青洲先生寿像
岩瀬敬司



知れわたり、全国から医学徒が紀州平山の青洲門下に雲集した。日本六十余州のうち、門人の無いのはわずかに宍岐と大隅の二か国だけである。門人の数は実に二千人に近いと語り伝えられた。

青洲が用いた麻酔薬「麻沸散」の主成分は、曼陀羅華から抽出したヒヨスチアミンとアトロピンを含有し、その他、草烏頭（主成分はアコニチン）、当帰、川芎も含まれている。

に成功した。ときに青洲は四十五歳、文化二年（一八〇五）十月十三日のことである。

この独創的な全身麻酔薬の発見、これを用いての手術の成功は、欧米におけるエーテルやクロロホルムを使用しての麻酔下手術よりも、実に四十年あまりも先のこと、特筆大書すべきことである。

爾來、その名声は全国津々浦々にまで

町で開業した。二代敬斉も、青洲没後、弘化二年（一八四六）に、平山本塾「春林軒」に入門している。

初代、二代ともに青洲門下生であったためか、青洲先生の遺品、遺墨等が現在、わが家に数多く残っているが、その一つに華岡青洲先生寿像の掛軸がある。これは画、丹羽長広、賛、青洲であり、青洲先生寿像に題し青洲先生自作の漢詩を座像の上部に書き入れて、門人の岩瀬が子の寿像を求めると特に画かせて与える

と書いてある。

その漢詩は

竹屋蕭然鳥雀喧
風光自適臥寒村
唯思起死回生術
何望輕裘肥馬門

とあり、これは敬介入門の翌年の正月、青洲七十一歳の時であり、青洲が医学を学ぶものの心意気を示して書いたものである。

この青洲先生寿像の掛軸を、わが家の正月には毎年、必ず座敷の床の間にかけ、その前にて一家揃って元旦を祝うことにしている。私で医家五代目であるが、このことは正月行事として、末永く次代に伝えてゆきたいものと念願している。

現在、私の兄弟三人が医業を継承し、その次代の六人が医学の道を選んでいるのは、この華岡青洲先生寿像の掛軸が無言の影響を与えているのではないかと随想している次第である。

（医師・前教育委員）



子どもがよく顔を出す
学級通信を

本宿小学校
嶋田 稔

「このごろ多い忘れ物」
「そうじの仕方はこれでよいか」
「こうした教師の訴えも、学級づくりができていないと、単なることに終わる。」
「明日の図工、わり箸とボール箱」
「一月分の集金〇〇円、十五日まで」
これだけでは、ちょっと寂しい。文章の間から、子どもの顔のぞくようであってほしい。例えば、
「転校してきた山田君の話が社会科の授業に役立ったこと」「ゴミを拾って校長先生にほめられた△△グループ」「よく気がつくストープ係の小川さん」「時間割をまちがえた先生の失敗」など。
母親の声を二、三あげると、
「子どもの日記や作文は、家庭の中のとまでよくわかってしまい恥ずかしい」
「テストの点数など書く必要があるのですか。学級内で起きた問題でもそうです」
「子どもの長所はいいが、短所までみんなに知らせるのはどうか。先生と母親が知っておればよいことではないですか」



ふるさとシリーズ
—この人に聞く—

但馬杜氏

西岡 茂氏

酒造り総責任者である杜氏を丸石醸造KKに尋ねた。

その人の名前は、西岡茂さん。兵庫県は但馬の出身。この地方は、冬季の農閑期を利用して、近畿一円だけでなく全国各地に酒造人を送りだしていると聞く。

西岡さんは、杜氏として但馬から十一人の酒造人とともに、十一月の初めから四月中ごろまで住み込みで酒造りをする。誰をつれてくるか、どれだけ賃金を払うかなど、人事から待遇まで、すべて杜氏が決定権をもつ。

杜氏の下には、頭かしら・代司しろし・配屋くわい・釜屋かま・

槽長さうぢやう・二番・働きという具合に序列がある。杜氏・頭・代司を三役と呼び、それぞれ仕事分担されている。

酒造人の起床は六時でも間に合うが、遅く起きてバタバタするよりは余裕をもってやった方が間違いないと五時半と決め励行している。夕方、五時ごろまでに一応の仕事を終えるが、三役の者は、夜九時ごろに、全体の見回りをする。さらに誰か一人は夜中見回りをする。杜氏はその全責任者ということで一日中気の休まる時はないといわれる。なかなか辛い仕事である。

酒造りで一番大切なことは何かとお尋ねすると、

「酒造りの技術的なことはもちろん大切なことですが、十一月の初めから半年近く、故郷を離れて仕事をしているし、日曜日もない厳しい暮らしなので、人をどのようにまとめていくかが大きな仕事です。」

と、人の和を熱く話された。さらにつけ加えて、

「一人だけががんばってもだめです。短い人でも五、六年一緒にやっています。いろいろな考えを持った人の集まりです。でも、蔵内を乱す人は絶対に許しません。これだけは厳しくやっています。」

杜氏として、和をつくりだすために心がけてみえることは何かとお尋ねすると、「仕事ができなくては問題になりませんが、まじめだけではついできません。」

仕事するときには口は悪いが、休憩のときには仕事のことは一切言いません。」と、話される。仕事ができること、幅広い豊かな人間性ともいえるようか。

丸石醸造KKの深田社長さんは、「杜氏がしっかりしていないとダメです。杜氏が蔵人から後ろ指を指されるようになっては、その蔵はひどいものです。」と。

社長さんが全幅の信頼を寄せ、それに答えるだけの技術とリーダー性を持った杜氏、それが西岡さんといえる。

全工程を案内してくださったが、こうじを手にした時の表情は、プロとしての厳しいものであった。

生年月日 昭和6・1・28
住 所 岡崎市中町六丁目
丸石醸造KK内



教師の意図がいくら善意でも、読み手に通じなくてはマイナスになる。文章は書き手のもとを出てすぐ一人歩きをする。

学級通信と学級経営

茨中学校

中尾 劔 一

私が学級通信を発行していたころは、ブームであったともいえる。学級通信を発行している人は、よい先生というイメージさえあった。そのために発行していたのではないが……。

教育には、学校教育・家庭教育・地域における社会教育があり、この三者が相互に協力しあってはじめて、子供の教育は成り立つものである。言うまでもなくこの三者の中心的役割を果たすものは学校でなければならぬが、学校教育には家庭の協力、理解が必要である。学級通信は、この学校と家庭を結ぶパイプ役を果たすものでなければならぬ。

特に今日、教育への関心と認識がたかまり、学校・教師への不信の問題が提起されている。父母と教師との人間的なふれあいを通しての信頼の回復こそ、教育を支える大事な条件である。したがって私は父母との交流を主体とした学級通信の発行を父母との相互理解を図るための出発点として大切に扱ってきた。

学級経営は、もともと教師の個別的な仕事である。担任は自らの人間観を土台にしながら学級づくりをしたいものだ。

岡崎再見

44

酒づくり

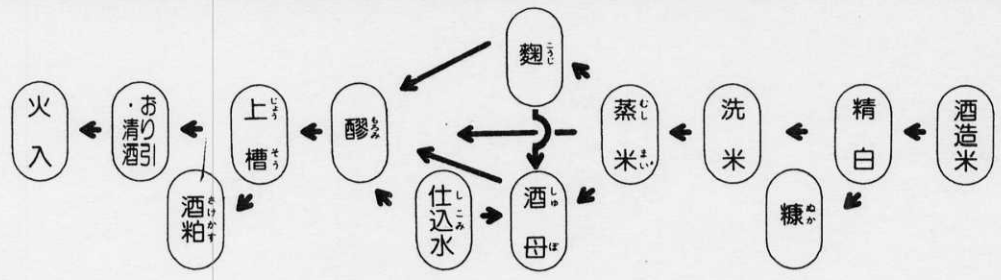
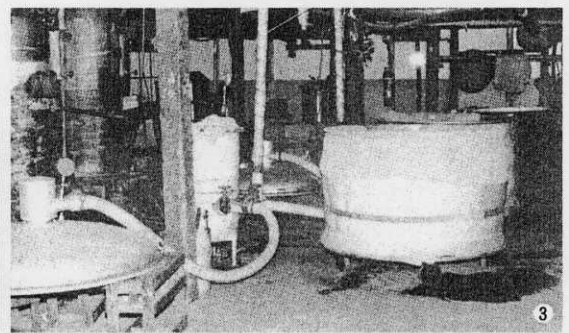


この御酒は我が御酒ならず
酒の神 常世に坐す
献り来し 御酒ぞ
乾さず飲せ ささ
歌いつつ 醸みけれかも
舞いつつ 醸みけれかも
この御酒の 御酒の
あやに転染し ささ

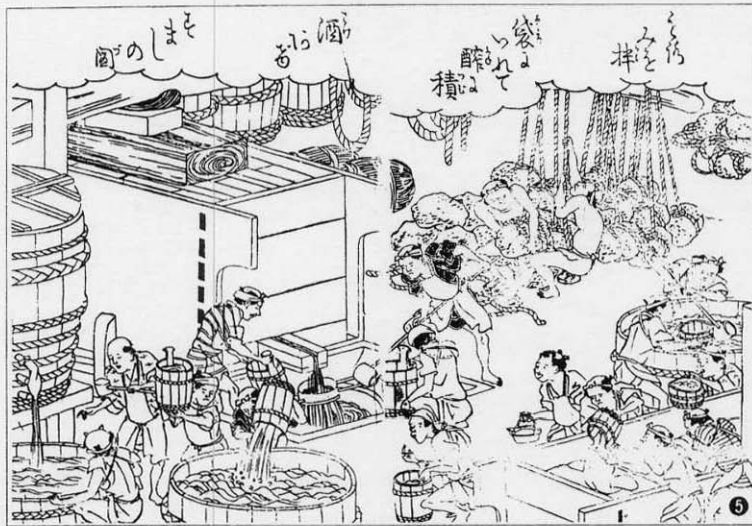
(古事記)

世界のどの地を訪ねても、その土地に合った酒がある。われわれ日本人も神話の時代から酒を愛し、人生の哀歡を酒と共にしてきた。

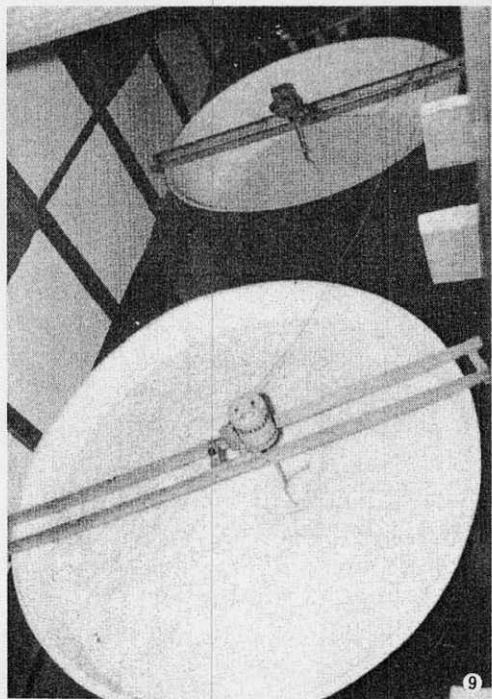
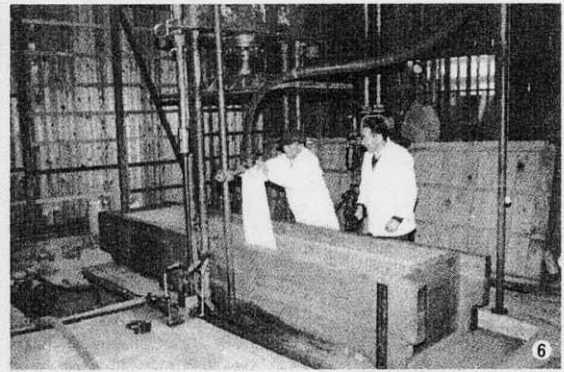
岡崎の銘酒「長誉」(中町)、「威光」(鴨田町)の醸造元に、伝承の技法をたずねた。杜氏、蔵人たちの厳しい目と温かい心が美酒をかもしていた。



お酒のできるまで



- ① 麴 蒸米に種麴をふりまき、製麴機で仕上げる。
- ② 精白 昔は玄米を石臼に入れ、杵でついてみがいた。
- ③ 蒸米 充分水を吸わせてから、蒸気力で蒸す。
- ④ 酒母 酒母タンクに入れ、酵母の増殖をはかる。
- ⑤ 江戸時代の酒づくり 摂津名所図会より。
- ⑥ 上槽 醪を槽(そう)で压榨し、酒と粕に分ける。
- ⑦ 出荷 市販規格の日本酒に調合してから出荷する。
- ⑧ 貯蔵 殺菌後、アルコール分20%内外で貯蔵する。
- ⑨ 醪 醪タンクで糖化とアルコール発酵を行わせる。



ほんとうの思いやり

羽根小 伊藤 悦子

「先生、家のK子はこのごろいつも一人で遅く帰って来るとです。今日はまた泣いていたので聞いてみると、下校中に同じ班の子たちにズボンを下げられたと言っています。いくらなんでも……」

電話の向こうで母親は声をつまらせていた。十一月中旬のことである。

K子は他の子に比べ遅れていて、一人では満足にできないこととの多い子である。そのためかまわりの子から悪口を言われたり、仲間はずれにされることもしばしばあった。しかし母親の



協力もあって、今まで学校嫌いにもならず何とかがやってきた。この分ならと安心していた矢先のできごとであった。

翌日、朝の会でさっそくこの事を取り上げ、みんなで話し合った。加害者である男子四人に理由を聞くと、

「K子は歩くのが遅いから信号を一回で渡れないもん。」

「速く歩きなつて言っても、言うこと聞かないもん。」

などとK子の非ばかり言う。なんと勝手なことを言うのか。K子にそれが通用しないことぐらい彼らは十分承知しているはずである。理屈ではわかっていても一年生では無理なのか。何かにつけてK子の味方をする私への反発もあつたのだらう。どうしようと思つているうちに私はK子のことを話し始めていた。

「K子ちゃんは小さいころの病気のせいでみんなと同じようにできないけど、それはK子ちゃんのせいじゃないでしょう。」

……みんな、もし自分がK子ちゃんだったらどんな気持ちになるか考えてごらん。」

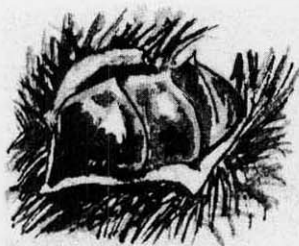
ほとんどの子がうつ向いてしまった。K子は泣いていた。

その後のみんなのK子に対する態度は一変した。学習時は励

まし、給食や清掃時は手伝ってやる。K子自身も前以上に努力をするようになった。

K子を傷つけまいとしてきたことが、かえって彼女を孤立させていたのだ。心から人を思いやることのむずかしさを教えられたような気がする。子どもたちもK子に対する今の気持ちを忘れないうで持ち続けていってほしいと願っている。

教育日々



少林寺拳法サークル

甲山中 加藤 一彦

「開足中段構え、構え!!」

「オーッ!!」

「突き!! 上段、始め!!」

「イチノ」「オーッ!!」

「ニイノ」「オーッ!!」

体育館の隅々まで響けとばかりに、気合のこもった演武が始まりました。

きょうは、甲山中伝統の文化祭第一日目です。二年生のコーラス大会の余韻がさめやらぬ体育館が、一瞬シーンと静まりかえり、わが「少林寺拳法サークル」の演武に、全校生徒の目が注がれた瞬間でした。

本校のサークル活動は「ゆとりの時間」の一環として、以前から行われてきました。学校側が開設する部活動やクラブと異なつて、生徒が興味や関心を追求する場として、同好の生徒同士が課題を設定して活動していくものであります。

三年前、全国各地で中学生の校内暴力が吹き荒れ、本校もその余波を受け、現実問題として表面化する年の四月、校内も、やや不穏なムードが漂っていました。そんな時だけに、生徒から「少林寺拳法サークル」開設の要望が出されたのに対して、強硬に開設に反対した職員が少なくなつたのは当然かもしれませんが、なぜなら、ほとんどの人が拳法について誤つた認識をしていたのと、要望した生徒の中には、いわゆるツツパリグループと目される数名が入つてい

たのですから、「きちがいに刃物」と思われたのでしよう。

しかし、私は少林寺拳法をこの機会に正しく認識してもらふと同時に、彼等にも、拳法の本神を身につけさせ、立ち直らせる絶好の機会であると考え、顧問を進んで引き受けることにしました。校長の大英断もあつて、サークルは発足しました。当初、八十名余もあつた希望者を三十数名に絞るのも容易ではありませんでした。そして一年後、三年の部員全員が何事もなく卒業していつてくれたことは、この上もない喜びでした。

あれから三年。現在男女合わせて二十一名が、先輩に続けと、懸命に練習に励んでおります。「やる気と思ひやり」の本校のねらいと拳法の精神を胸に。





第17回 県教育研究論文

最優秀賞に鈴木勘三教諭(奥殿小)

県教育委員会と県教育振興会主催の第十七回教育研究論文で岡崎市から応募した一三七点のうち一〇点が入賞した。

優秀賞以上の入賞者は、去る十二月二十六日県庁において表彰された。

【個人研究】

▽最優秀賞 鈴木勘三(奥殿小)

「小学校水泳指導計画に対する試みと実践」

▽優秀賞 糟谷京子(福岡小)

「感動を素直に表現させたために」—せんせいあのねの実践—

榊原 豊(葵 中)

「野鳥を知り野鳥を守って自然に目を向けさせる教育」—ふるさと学習の一環として—

◆「寄贈刊行物・資料等」
藤川小学校
変型B5 一四九ページ

◆自律と感動の教育 葵中学校
B5 四八ページ

◆自律と感動 あおいの実践 (その3) A5 一〇九ページ
◆指導と実践 竜谷小学校

B5 二六〇ページ
◆「子どもが創る」授業 梅園小学校

A5 二〇〇ページ
◆悠紀 No.88 六ツ美中学校
A5 八二ページ

◆連尺の教育 この十年 連尺小学校

3、保健8、生活指導2、教育全般13
〈中学校〉(一五八点)
国語20、書写1、社会15、数学14、理科16、音楽7、美術8、保健体育8、技術・家庭15、英語9、道徳1、特活15、特殊4、視聴覚3、生活指導4、教育全般8

▽佳作 平岩浩文(広幡小)

石川章三(大樹寺小)

松岡育代(六北小)

稲葉道彦(連尺小)

山田一夫(矢西小)

【共同研究】

▽佳作 羽根小給食部

葵中生活指導部

■市教育研究論文の応募状況

昭和五十八年度の岡崎市教育研究論文に個人研究三四九点、共同研究八三点、計四三二点の応募があった。内訳は次のようである。

〈小学校〉(二七四点)

国語53、書写5、社会51、算数22、理科30、音楽14、図工5、体育18、家庭4、道徳3、特活33、特殊5、視聴覚5、図書館

変型B3 五二ページ
◆自ら調べ、磨き合い、生きる学習の建設 細川小学校
A5 一七五ページ

◆社会・わたしたちのノート A5 一〇八ページ 細川小

◆岡崎の蝶 A5 五七ページ 三浦重光

TPP作品は九十七点の応募があった。そのうち小学校四十点、中学校十九点が入選と決まった。入賞者は次の通り。

〈小学校〉

▽国語 杉浦伸二(六ツ美南)

小栗春枝(愛宕)湯本通孝(城南)

平野泉(矢作西)三浦早苗(男川)▽社会 本沢寿美子(大樹寺)上原健次(細川)清水真奈美(細川)菅沼和子(細川)

中村郁夫(細川)高井幸子(三島)▽算数 杉浦弘子(福岡)

横井学(矢作北)水越元彦(井田)大塚尊夫(井田)柴田輝夫(広幡)岩月美佐子(広幡)八田敏公(連尺)彦坂はるみ(大樹寺)石川章三(大樹寺)鈴木彰(城南)長神ゆかり(細川)

浅井香織(三島)鈴木金利(梅園)▽理科 河上真一(大門)

高橋啓三(大樹寺)岡本孝幸(大樹寺)桜井公治(大樹寺)

土田修義他一名(三島)明保恵

子(三島)▽音楽 小野佐由里(美合)宇野敬子(三島)▽図工 柴田弘子(大樹寺)▽体育 八田昌子(三島)▽道徳 小栗浩子(六名)▽特活 平岩浩文他三名(広幡)▽保健 三木世紫枝(広幡)吉田久子(大樹寺)東忠(大樹寺)竹内順子(細川)

〈中学校〉

▽社会 高木和広(美川)山田賢平(福岡)戸松賢治(六ツ美)▽数学 杉山隆之(常磐)畔柳義範(美川)内藤広光(矢作北)▽理科 神谷秀光(美川)川瀬哲夫(美川)高瀬昭三(美川)高橋明敏(南)磯貝良雄(矢作北)岡部敬子(矢作北)後藤晶基(矢作北)▽美術 鈴木孝司(葵)▽技術・家庭 竹川扶志江(矢作)渡辺総意(矢作北)▽英語 松本香(矢作)▽特活 伊藤直也(矢作)山田泉美(矢作)

■第二十七回書きぞめ展
岡崎市小中学校書きぞめ展は一月十八日(二十一日)の五日間市美術館で開催される。

■わたしたちの放送利用作文
最優秀賞

広幡小六年 松尾温子

宇頭のチャボ井戸



所在地—岡崎市宇頭町

岡崎市の西のはずれ、宇頭観音の名鉄軌道を越した北に、宇長者屋敷という、いわくのありそうな地名の一画がある。その名の通りこの地は昔々鎌倉街道沿いにあり、長者の住む屋敷があつたと言ひ伝えられている。

かつてこのあたりは宇頭の村の神聖な土地で、老松の繁みの下に長者の井戸という大きな井戸があつた。

この井戸の底には長者の秘宝といわれる『黄金のチャボ鶏』が沈んでおり、元旦の刻をつけるといわれ、大正のころ村の消防の若者たちがこっそりこの宝物を手に入れようと画策した。

手押し消防ポンプで井戸水を汲み干し、井戸の底に宝物を見つけた？時、宇頭本郷で火事が発生、このふととき者らの家が丸焼けになつてしまつたといふ因縁めいた余話もある。

この『チャボ井戸』のあつた所は現在は梨園となつている。南端の一画に柿の木が一本、その根元の畳十枚ほどの茶の木の繁みの中に、直径三メートル深さ四メートルほどの大穴があいて

いる。秘宝のチャボ鶏は周囲から、くずれ落ちた土砂のために、ふたたび地中深く埋まつてしまつたらしい。

この本を

- * 博学紀行〈愛知県〉 市川 正己 1,500円
- 福武書店
- * 大貧帳 内田 百聞 1,000円
- 六興出版
- * 紫匂ひ 原原 正秋 加藤唐九郎 1,400円
- 講談社
- * 昔の人 今の状況 桑子 武夫 1,500円
- 岩波書店
- * 白鳥・宣長・言葉 小林 秀雄 2,000円
- 文芸春秋
- * 「わかる」ということの意味 佐伯 胖 950円
- 岩波書店
- * 生きている地球 上田 誠也 1,200円
- (岩波グラフィクス)
- 岩波書店
- * 子どものからだことば 竹内 敏春 980円
- 晶文社
- * 教科書 柴田 義松 1,600円
- 子どもにとってよい教科書とは
- 有斐閣
- * 二つの祖国〈上・中・下巻〉 山崎 豊子 各 1,200円
- 新潮社

「岡崎教育史要(昭三三刊)の明治教育思潮の章に収録された講演記録の一節。

『富籤的問答法』— 児童ハ何ト答レハ師ノ意ニ適スルヤ考ヘシムルカ如シ。師ハ己レノ思フ所ニ合ハサシメント欲スルモノナリ (講演者・師範学校長)

学習指導法、ひいては教育観をゆさぶる警鐘である。温故知新。

正月早々、月報の発行を遅らせたいけないと、学期末の忙しい中を集まつてきた編集委員たち。

原稿集め、特集「酒づくり」の取材、編集と忙しく飛びまわつた。オアシスも四苦八苦で書き上げた。難産で苦しんだ月報一月号。「積んどく」だけでなく、ぜひ読んでいただきたい。



新玉の年の初めを言祝ぎ、「おめでとうございます」と言い交わす。学校の子供たちからの年賀状は、殊のほか胸に迫るものが多い。気の利いたことばが書いてなくても、何度も書き直したらしい拙い文字やマンガ絵に、子供たちにとつて、私は良き教師たりえたか、と鞭打たれる。ありがたき正月である。

寸暇を惜しんで、生徒と語り合う努力をしている新任のT先生。生徒が帰つた後は学級通信づくり。机の上に一枚一枚配るとT先生の一日が終わる。こんな取り組みも一例である。学級のひとりひとりをいつも見守っている。体裁ではない。暖かい心がある。生徒も親もちゃんと知っている。

● カット 羽根小

加藤直樹